

町と酪農学園大学が地域総合交流協定締結

連携して環境保全に取り組む

7月29日洞爺湖の保全や地域の活性化を目的に、洞爺湖町と酪農学園大学・同短期大学部とが地域総合交流協定を締結しました。

この日は、谷山学長らが役場を訪れ、長崎町長と協定書を交しました。

協定では、ウチダザリガニの駆除や洞爺湖の水質科学調査、中島のエゾシカの生態調査などでの協力をうたっています。

長崎町長は「世界に誇れるこの地域の自然景観を相互協力の下に保全、保護していきたい」と述べ、谷山学長も「地域と大学が連携して環境破壊などの課題を克服していくことが、大学に求められている」と協定の意義について語りまし



協定書を交わし握手する長崎町長と谷山学長

親子3世代で仲良くゲーム楽しむ じゃんけんゲームで盛り上がる

いろいろなスポーツを親子3世代で楽しく体験しようと「スポーツゲームsin洞爺湖」(主催 洞爺湖町・健康づくり大学洞爺湖キャンパス事業推進協議会)が7月25日、財田キャンプ場にある室内体育館で開かれました。

当日は、親子3世代23チームが参加し、3グループに分かれて対抗戦で競いあいました。

じゃんけんを使った、じゃんけん列車、じゃんけんサッカーなどのゲームに子どもはおおはしゃぎ。第1、2世代は日ごろの運動不足がこたえている様子でした。



ゲームで盛り上がる参加者ら

北海道洞爺湖サミット開催を記念して、西山火口散策路南口の町有地に作られた、「サミット記念の森」で、7月25日北海道主催の「サミット記念の森下刈り体験ツアー」が行われ、

札幌などから約100人が参加しました。

作業前には、坂下智恵子北海道森林環境局森林活用課参事が「地球温暖化を防止する役割を持つ森として、今後も植樹を行っていきたい」とあいさつ。

参加者は、雨がふるあいにくの空模様の中、慣れた手付きで伸びてきた雑草などを刈上げました。

サミットの森で下刈り体験ツアー 札幌から100人参加



雨の中、下刈りする参加者

